

2007年1月24日
東日本旅客鉄道株式会社

2006年度「踏切事故0運動」の展開について

ドライバーの方に踏切の前での一旦停止ルールの再認識ともしもの時の踏切内でトラブルにあった場合の脱出方法をPRします。
ドライバーの方にアピールするために、社会への影響力が大きいテレビ、ラジオ、新聞及びトレインチャンネルによる展開を行います。
「踏切事故^{ゼロ}0運動」は1991年から継続しています。

1 実施期間・エリア

「2007年1月27日(土)から2007年2月26日(月)まで」の期間実施します。
JR東日本管内全エリアで実施します。

2 具体的な展開方法

当社における今年度12月末日までの踏切事故は28件発生し、その多くが無理な踏切への進入による停滞や落輪となっています。また、踏切内に閉じ込められた際、自動車の脱出が間に合わずに列車と衝撃する事故例が続いていますので、ドライバーへ踏切の前での一旦停止と踏切内に閉じ込められた場合の脱出方法を再度アピールします。

なお、降雪地域では凍結によるスリップが多発する時期でもあるため、仙台、盛岡、秋田、新潟、長野の各支社管内で掲出するポスター及び新聞広告については、凍結によるスリップ注意の喚起を行います。

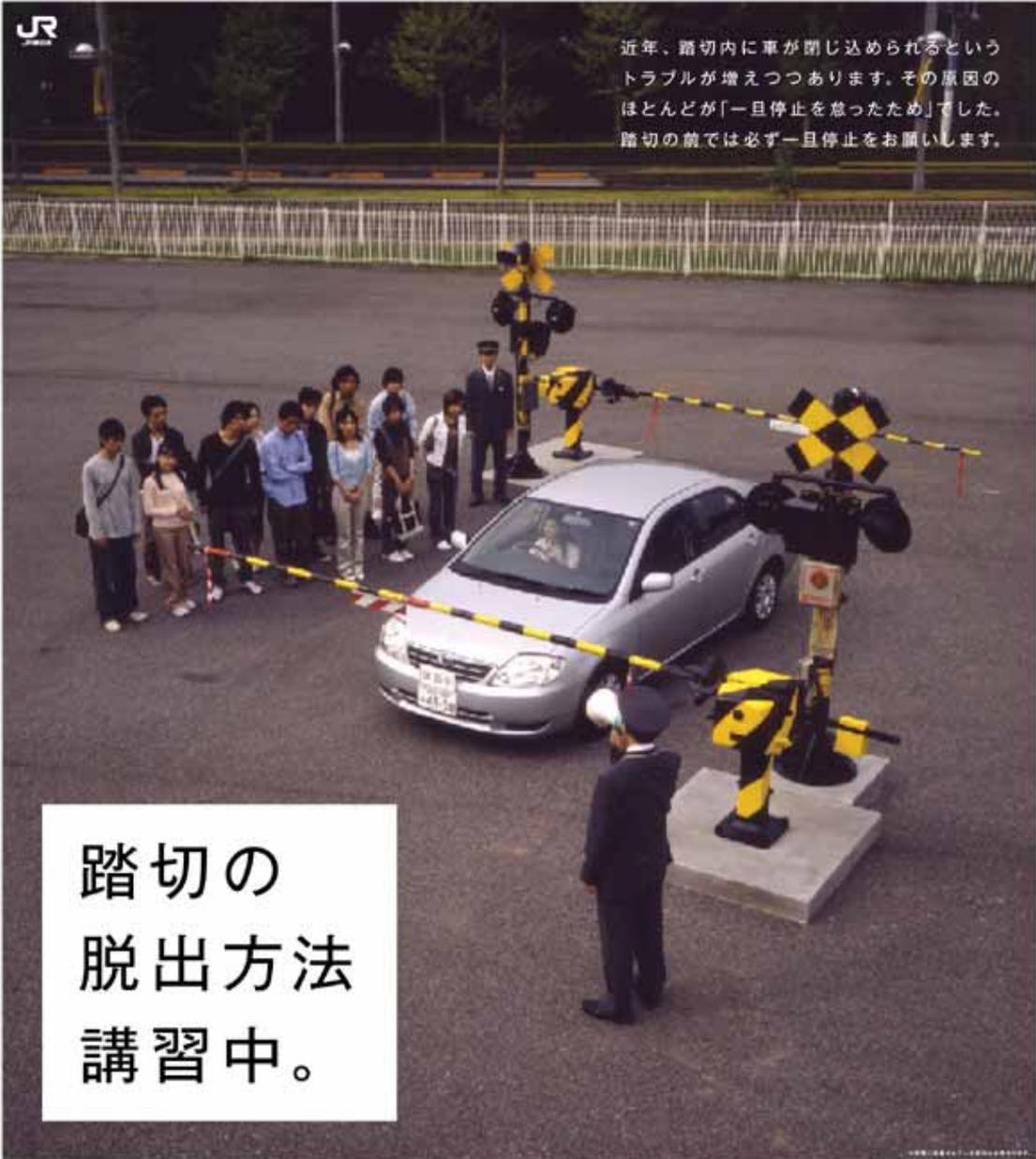
3 その他

当社管内の踏切等においてパンフレットを配布し、踏切事故防止をアピールします。配布用パンフレットは、ドライバーに踏切の前での一旦停止と、もしもの時の脱出方法をアピールする目的で作成しました。なお、降雪地域のパンフレットについては脱出方法とスリップ注意の双方をアピールするものとししました。

多くのドライバーに「踏切の前での一旦停止」の交通ルールを守ることの大切さと、もしもの時、確実に踏切内から脱出する方法を再確認していただくため実施します。



近年、踏切内に車が閉じ込められるという
トラブルが増えつつあります。その原因の
ほとんどが「一旦停止を怠ったため」でした。
踏切の前では必ず一旦停止をお願いします。



踏切の 脱出方法 講習中。

踏切内に車が閉じ込められたら

あわてずに、そのままゆっくり前進して
ください。シャス棒は車で押せば、前方
に跳ね上がります。



踏切内で車が動かなくなったら

非常ボタンを押して、列車を止めてくだ
さい。非常ボタンがない踏切では、発炎筒
や赤色灯(旗)を使用してください。



非常ボタンがある踏切
カバーの上から強く押し
てください。番号欄が赤
色し、列車に異常を知ら
せます。



非常ボタンがない踏切
列車に向かって手を大
きく揺るなどして、危険
を知らせてください。
発炎筒や赤色灯(旗)を
使用すると効果的です。

JR東日本
関東支社
安全課

忘れないで、一旦停止。踏切事故0運動



スリッパ 注意

凍結などによる
スリッパが多発する
季節です。踏切の前では
早めのブレーキで、
しっかりと一旦停止を。

冬の

踏切事故 ^{ゼロ} 運動